

「平成二〇年度学生支援に関わる教職員の研修会」を開催しました

本機構東海支部では、「学生の悩み相談事業」として、標記研修会を平成二〇年一月二八日（火）にウィルあいち（名古屋市中区）にて開催し、九六名が参加しました。

この研修会は、あいち学生支援コンソーシアムと連携協力し、岐阜、静岡、愛知及び三重県内の大学等教職員が、多様な学生への具体的対応方法について討議研修し、学生への支援体制について情報交換を行うことを目的に実施しているものです。

はじめに、主催者である日本学生支援機構東海支部 中村直規支部長及びあいち学生支援コンソーシアム 杉山寛行運営委員会委員長（名古屋大学 理事・副総長）から、挨拶が行われました。

次に、桐山雅子学生相談専門委員会委員長（中部大学 学生相談室 教授）が、研修の企画趣旨を説明しました。

研修会は、講演・情報交換



会及び分科会で構成され、講演では、「全学的な学生支援と守秘義務の問題」をテーマに、高石恭子講師（甲南大学 学生相談室 教授）による、カウンセラーから見る最近の学生の状況や、甲南大学における学生生活支援システムの構築及び学生支援に携わる教職員の守秘義務についてなど貴重な話が聞かれました。情報交換会では、「学内連携と守秘義務」をテーマに、最初に話題提供として、教員の立場から加藤鉦次氏（名古屋造形芸術大学短期大学部 教授）、専門職の立場から加藤淑恵氏（大同工業大学 保健室 看護師）、学生相談カウンセラーの立場から野副紫をん氏（名古屋経済大学・同短期大学部 学生相談室 カウンセラー）より発表が行われ、質疑応答やコメントーターによるコメントが加わり議論が深められました。

分科会においては、四つのグループに分かれ、①「学生対応に活かすカウンセリングの基礎」、②「発達障害の基礎知識」、③「対応に困った学生の事例」、④「危機介入・危機管理」のテーマで、活発な意見交換・討議がなされ、日頃、困難な学生対応に苦労している教職員にとって、二時間半にわたる真剣な論議は、本当に有意義であったとの声が多く聞かれました。

今後も、平成二二年一月二八日（水）には「学生支援に関わる相談担当者の研修会」を予定するなど、大学等の学生サービスの充実を支援し、大学等のニーズをよりの確に把握して、本事業の充実に努めていくこととしています。